

STAPHISAGRIA／サンカラシ

Staph. は cancer マヤズムに落ち込んでいく syco-syphilitic レメディである。Staph. の患者は癌を生じる傾向があるということが私には分かってきた。

Staph. は病的に敏感である。この敏感さの影響は非常に深くかつ長期間持続する。彼らはほとんど不可能な課題を自分に課す。その課題とは、打ち負かされても侮辱されても恥をかかされても自分の尊厳を維持するということである。Staph. の主要なフィーリングとは、高貴な生まれの人のような尊厳と品位の感覚である。彼は自分の尊厳と品位の感覚（しばしば人に必要とされるよりはるかに上のものである）に従って生活するべきであると感じている。

たとえ他人がやっていたとしても自分はそういったみっともないことをやるべきではないと思う。彼は決して自分を他人のレベルにまで貶めない（そして他人がするような行動で仕返しをしない）。彼は決して自己コントロールを失わないようにしなければならない。それは彼の尊厳と品位にとってあまりに低いものだからである。

誰かに侮辱されても、自分の高貴な生まれにふさわしくあるようにコントロールを維持しなければならない。機嫌を悪くすることができないし、人を口汚く罵ったり暴力的になったりできない。もしそんなことをしてしまえば、非常に気が動転し自分に侮辱的なことをしてしまったかのように感じる。そしてそのことの方が侮辱されたことそれ自体の影響よりもひどいのである。

それゆえに Phatak のマテリアメディカには“他人や自分自身によって為された事に関する強い憤り indignation。その結果としての悲しみ。”という一文があるのである。私にとってこれは非常に重要な一文である。彼はそういった自分がコントロールを失ったという評判を気にかける。

Phatak のマテリアメディカに“他人が自分に関して述べることに非常に敏感”という文章がある。このフィーリングから、この人の生存の戦略というのは、非常に高い評判と自己コントロールを維持すること、そしてあらゆる自分の高貴な動作によって期待を勝ち取って非常に優れた冷静な品位のある人・・普通の状態をはるかに超えている人・・であろうとすること、それに依存しているように思われる。

Staph. には Aurum と同様に“高い場所への恐れ。落ちる事への恐れ”がみられる。彼はあらゆる侮辱に耐えようとする。そして反応しないようにしなければならない。さもなければ尊厳を失ってしまうだろう。

ある時点で Staph. の人はコントロールを維持するのはもう無理だとわかる。コントロールを失いはじめ、その最初のサインは表面化してくる抑圧された怒りである。

- Trembling in anger : 怒りで震える。
- Voice lost during anger : 怒りで声が出なくなる。
- Face red in anger : 怒りで顔が真っ赤になる。
- Weakness after anger : 怒った後に弱々しくなる。
- Hemiplegia after anger : 怒った後の半身麻痺。
- Anger, throws things away : 怒って物を投げ捨てる。
- Strike, desire to : 殴りたいという欲求。

これらがコントロールを失った最初のサインである。その後、やけくその状態になって自分に要求されているものはあまりに過酷だと感じると、自分の全ての名声や尊厳を窓に向かって投げつけ、全く反対の人、例えば人々に見下され最大限の軽蔑をもって扱われるような悪名高い人になったりするかもしれない。

ここで “Libertism 自由主義・放蕩放埒” というルブリクスを挙げたい。肉体レベルでは筋肉のコントロールの喪失がみられることがある。“Convulsion, from being unjustly accused: 不当に非難されることから痙攣発作”が生じることがある (Synthetic Repertory Vol. II)。

Staph. の人は自分に非常に厳格な規範を課し、それを守れない場合ひどく自分に対して憤りを感じる。そのため自分の衝動、特に性的な衝動を抑圧しなければならなくなっている。非常に臆病で卑怯な状態になり、罪悪感を感じる。傷つけられることに対する恐怖があるために、恥の感覚があるために、そして自尊心のために。自分の高まった性欲をダイレクトに表すことができない。

Staph. は女性に色目を使うような人ではない。ゆえに性欲を抑圧し “Dwells on sexual matters : 性的な事についてあれこれ考える” という特徴的な状態になる。また自慰を行う傾向が顕著にみられる。怒りと情熱をコントロールすること—エゴと心の傷を飲み込んでしまうこと—これが Staph. の生き残りのメカニズムである。これは最大の問題を引き起こす状況である。

例えば、自己の威厳とか名声とかに強い関心を持つ人は性的に自分のセクシュアリティをオープンに表現することに対しひどい困惑を感じるだろう。そして性的な面は抑圧され空想の中でのみ表現される (“Ailments from embarrassment: 当惑から病に。” “Sexual-minded : 性的なマインド”)。しかしこういった空想ですら罪悪感や恐怖を引き起こす。そういった空想に耽溺しているという罪悪感と自分の空想が他人にみつかってしまう

のではないかという恐怖である。

今までに作り上げ守り続けてきた自己の威厳と名声という大建築物が崩壊してしまうだろう。これはやがて強い不安状態を引き起こし、誰かが自分の後ろにいるような感覚のある神経症的不安状態になり、いつも後ろを振り返る続けるような状態になる。常にコントロールを維持することの必要性や自分の許容力を遥かに超えて生きることを必要とするということ、このことが Staph. を Syco-syphilitic なレメディにしている。

Sycotic な側面は、控えめでほとんど秘密主義的な性質と自分がコントロールを失って他人が自分の弱さをみつけてしまうのではないかという心配に良く表れている。この自己コントロールは時に禁煙しようとする頑張りとしてみられる。

Staph. のメインとなる特徴は感情と肉体両面における極端な敏感さと反応性である。Staph. の敏感なポイント、つまり威厳や名声や自尊心といった部分に触れてしまうと、それはしばしば抑圧されているのだけれども、すぐさま強烈な反応を示す。ケントは次のように記している。“地位が下の者に侮辱されても外面的には反応せず、家に帰ると体調が悪くなり、弱々しくなり、震えが生じる”。

身体的にも同様に、Staph. は外科手術の傷痕が痛んだり歯が敏感になっている時のような極端に敏感な状態にある時に用いられる。Phatak のレパトリリーには “Sensitive, morbidly: 病的に敏感” というルブリクスに唯一挙げられているレメディである。また、敏感さをカバーするために組織の硬化が生じ、物もらいや腫瘤を生じる傾向がみられる。こういった敏感さは植物だけでなく鉱物や塩類、動物のレメディにもみられるものである。Staph. の場合、性質的には鉱物の場合の硬さや動物の競争性よりは植物の柔らかさがみられる。

私の経験では、Staph. には2つの両極端な状態があり、ひとつは“私が最後に怒ってしまったのは17年前です”と話すような感情を抑圧してきた人であり、もうひとつはコントロールの出来ない人— “Violent outburst of passion: 暴力的な激情の迸り” とか “Always angry: いつも怒っている” と Phatak の述べているような人である。実際の臨床の場でみる Staph. の患者はこれらの両極端な状態の間の状態をとる。その全てに存在する普遍的テーマは威厳と尊敬の問題であり、彼らの内側にある感覚とは非常に高い評判に応じるように生活することである。

Staph. にはたくさんの恐怖がある。侮辱されることに対する恐れ、恥をかかされることに対する恐れ、殺されることへの恐れ。自分の影にすらおびえる。

私の観察によると Staph. はセッション中非常に弁解がましい様子がみられる。それはま

るで医者が無礼な振る舞いをかわし、非難を避けようとしているかのようである。傷つけられることに敏感なために予期し先回りをする。患者はあらゆる事に謝罪するセッションの自分の番を間違えたとか、2, 3日薬を飲まないでいて調子があまり良くないとすると、通常自分を非難する。

私が思い出すのは、セッションルームにためらいがちに入ってきてスリッパをドアのところで脱ぐべきかどうか尋ねた患者である。ここにみられるのは、私から非難されたり忠告を受けたりしたくないので何かをやる前にクリニックの基準を見いだそうと用心深く慎重になっている姿である。

この非難や忠告に対する敏感さに隠れて、権威ある人のルールに従っている限りは自分はOKであるという Delusion が表現されているのを見て取ることができる。彼女の現実に対する認識というのは、自分は常に誰かに従属し追従している、というものである。

それはあたかも正しい行動というものに関して世界の残りの部分と契約を結んだようなものである。問題は、患者はそれに署名しているのに世界は署名していないということである。

マテリアメディカに記載されている Staph. の姿というのは、高貴な環境に育った人のそれであり、現在は貧しく他人に頼っていたり、自分に屈辱を与えるような人の下にいたりする。大っぴらに反抗したり怒りを露わにしたりすることができない。何故なら、そうすると自分の価値を下げるように感じるからである。自分が頼っている人に不当な扱いを受けている状況である。故に以下がみられる。

- The need for justice : 公正さを求める
- Egotism : 利己主義的
- Insulted feeling : 侮辱された感覚
- Mortification : 悔しさ
- Suppressed anger : 抑圧された怒り
- Occasional violent outburst of anger : 時に怒りが暴力的に突発する

しかし、噛んだり蹴ったりといった状態を伴う Lyssinum の逆上とは異なる。Lyssinum のような苦悩した状態ではなく、不当に扱われ恥をかかされ侮辱された状態である。突き刺したり、肋骨を突いたりといった活動的ななにかがあるわけではない。Staph. のフィーリングを表し方としては出て行けと言うことであり、一方 Lyssinum は日に3回もあなたの肋骨を突つつく。

ここで私はマハトマ・ガンジーを思い出す。彼は、浅黒い肌の人間に軽蔑的なイギリス

によって統治されていた国に生まれた。しかし、ガンジーは非常に高潔で妥協を許さない威厳を示し、同国人ばかりでなく彼を抑圧し侮辱したまさにその人々からも尊敬を勝ち得て、偉大なる魂マハトマと称されるようになった。彼は、自己コントロールと暴力のコントロールを示すことによって、そしてまた真実と徳行を頑なに粘り強く行い続けることによってそれを為したのである。

私がみるところでは、ガンジーの長男であるハリラルは完璧に Staph. の降参状態であった。すでに彼は Staph. を父親から受け継いで生まれていた。それに加えてガンジーの息子という名声に見合うようにならなければならなかった。彼は最初はそれをうまく扱っていた。南アフリカの自由を求める闘争に参加し父親のように何度も投獄された。しかしまもなく社会や父親からの期待が強まり、既に Staph. の状態だったところにさらにそれが加わって、彼は完全に根を上げてしまいあらゆる類の悪癖がみられるようになり、一族に多大な不名誉をもたらした。

私のみるところでは Staph. は Platina とは異なる態度をとる。Staph. は外面的にはエゴイスティックではないし、王様や女王のようにつんとすましてもない。非常にソフトで物静かで控えめでしばしば腰が低い。しかしその存在の中に自分を名誉と尊敬をもって扱ってもらいたいというものが強く感じられる。不作法に話されたり無礼に扱われたりすることに敏感であるというのがすぐわかる。この彼らの外見と名誉の感覚の対照性というのは、私が Staph. を見つけるためにこれまで何度となく用いた兆候であり、それは時にセッションの最初の瞬間にわかってしまうようなものである。

Staph. の他に Cancer マヤズムに属する植物のレメディがあり、私の知るところでは Ignatia と Anacardium である。

Carcinosinum は Staph. と相補的であるが、Carc. の状態はその人が依存している人に非常に強くコントロールされることによってひきおこされ、一方 Staph. は侮辱を受けることで起こる。

Staph. と相補的なレメディとしては他に Sulphur がある。Staph. の状態というのは侮辱されたり屈辱を受けたとを感じるような状態である。当然ながらこの状態はそれまでプライドが高かったり利己的であった人の方が起こりやすい。Staph. の後に Sulphur を用いることがしばしばある。これは、言葉をかえていえば Sulphur の利己的な状態があると Staph. の屈辱の状態を起こしやすいということである。

ルブリクス

—Ailments from indignation : 憤りから病に。

- Ailments from anger, suppressed : 怒りの抑圧で病に。
- Ailments from embarrassment : 当惑して病に。
- Ailments from honour, wounded : 尊厳を傷つけられて病に。
- Ailments from rudeness of others : 他人の無礼な振る舞いで病に。
- Ailments from scorn : 嘲笑されて病に。
- Ailments from sexual excess : 過剰な性行為で病に。
- Anger, throws things away : 怒り、物を投げる。
- Anger, trembling with : 怒りで震える。
- Anger, violent : 怒り、暴力的な。
- Egotism : 自己中心的。
- Fear, high places, of : 高い場所への恐れ。
- Fear, self-control, of losing : 自己コントロールを失うことを恐れる。
- Lascivious : 淫ら。
- Libertinism : 放蕩。
- Offended easily : すぐに気分を害する。
- Sensitive, moral impressions, to : 道徳的な影響に敏感。
- Sensitive, reprimands, to : 非難に敏感。
- Convulsions, accused, from being unjustly (Synthetic Repertory Vol. 2) : 不当に非難されることで発作が生じる。
- Tobacco, remedies to produce disgust for (Synthetic Repertory Vol. 2) : 煙草への嫌悪を起こさせるレメディ。

Kent

- Voice, lost, from anger : 怒りで声が出なくなる。
- Respiration, difficult, anger, from : 怒りで呼吸困難に。
- Trembling, from anger : 怒りで震える。
- Face, red from anger : 怒りで顔が真っ赤になる。

Phatak

- Craves condiments : 香辛料を好む。
- Fear, of financial loss : 財産を失うことを恐れる。
- Fear, shadow, of his own : 自分の影を恐れる。
- Hemiplegia after anger : 怒った後に半身麻痺。
- Imagination, of insults : 侮辱されているという想像。
- Sensitive, to what others say about her : 他人が自分についてはなすことに敏感。
- Sensitive, morbidly : 病的な敏感さ。
- Sleep afternoon < : 午睡で悪化。